

2024 年 12 月 21 日自然を語る会：

- 飯田橋ボランティアセンター+Zoom
- 参加者 13 名

きたる 2 月 8 日に予定している山際壽一氏の講演に向けて、同氏の著書を予習する第一弾。膨大な著書から 6 冊を選び、事前に読んだ本について、特に心を動かされた箇所や感想を共有し合った。

- ① 『「サル化」する人間社会』（2014 年、集英社インターナショナル）
- ② 『人生で大事なことはみんなゴリラから教わった』（2020 年、家の光協会）
- ③ 『スマホを捨てたい子どもたち-野生に学ぶ「未知の時代」の生き方』（2020 年、ポプラ新書）
- ④ 『京大というジャングルでゴリラ学者が考えたこと』（2021 年、朝日新書）
- ⑤ 『猿声人語』（2022 年、青土社）
- ⑥ 『人類は何を失いつつあるのか』（2022 年共著、朝日新聞出版）

家族で食事をする

- 静かなゴリラの社会のあり方が参考になる。子育てを含め、人間社会についてよくわかる。実体験の大事さ。
- ゴリラは家族とともに食事する。一方、猿は個食。人間の個食が益々進んでいる。心の安定は、家族とともに食事をすることで保たれている。私たちが大切にすべきことを再認識できた。コンビニ生活はだめだと思う。
- ゴリラは猿ではない。尻尾の有無。社会の作り方が違う（ゴリラは家族単位、猿は群れ）。ゴリラの家族の構成（メスとの関係、子育ての関係）が面白い。

優劣をつけない

- 猿は優劣をすぐにつける。私たちもそう。そして戦争になる。ゴリラは曖昧にして、対面で、じっと目を見て話し合う。ゴリラの社会は優劣を付けない。
- ゴリラは負けないことが仲裁の目標になる。人間は勝つことを奨励するので、友達を失い、勝ち組・負け組ができ、いじめ社会を作っていく。
- 猿は喧嘩をするが、広い所だと大丈夫（住む空間を分けるので）。喧嘩の原因は、先に美味しいものを食べたいという意識。一方、ジャングルは物が豊富なので、優劣があっても下の人も食べる物がある、というのもゴリラの性質の背景にある。

情報化が思考を奪っている

- このまま情報化が進めば、人間は考えることをやめるかも知れない。

- シンボルだけのつながりはシンボルではない。共感できるサイズは 150 人程度ではないか。無制限につながっている感じを持っているかもしれないが、実際はそうではない。
- スマホを通して、リアルの世界が二の次になって、スマホの世界を本物だと思ってしまう。
- 均質化が恐ろしい。自分と異なるものを理解することができなくなる。
- インターネットは自分本位、情報化＝分かったもののみ流れる。分からないものを理解できなくなる。
- 哲学の喪失が起きる。人はいかに生きるべきか、といった概念がなくなってしまう。他者に対してどうあるべきか、を考える時代は終わってしまった。
- バカになる、ではなく、バカになった。バカどうしでコミュニケーションしている。人間はバカになり、物を考えなくなった。

人との関わりの重要性

- 親以外の他者との関わりが大事。迷惑をかけあうことを幸福とする世界を築かないといけない。相手と向き合うならば、白黒ではなく、こういう感じの人だな、と受け止める。向き合うことが必要。
- 「タマゴ育て」＝他の孫。人間に大人は自分の子供ではない子供にも責任を持っている。
- 「デジタルに頼らない繋がり方」を考えなければならないと思った。浮かぶのは路地の文化。ゴリラと似ていた。人と関わり、隣の声が聞こえ、子供は大人の声が聞こえる。おせっかい（今は個人情報など気にする）。
- 個人情報である名札を外して、人とすれ違っても挨拶しない教育になっている。今の子どもたちを取り巻く社会の実情。ゴリラに近い社会を取り戻す必要。
- AI に操作される人間になってしまった人間は、もう人間でなくなってしまうのではないか。
- これからの子供達に対して、メッセージが書かれている。未来の子供達を育てる役割を持っているという役割を自覚すべき。
- 正解は一つではない。正解があるものなんて殆どない。一つにこだわらなければ、戦争も起きない。いかに生きるべきかの人生論も書かれている。
- 自分の子を幸せにしようとするのが競争社会の問題。

環境破壊

- ゴリラの住むジャングルが安定した生態系。今は環境汚染・気候変動でジャングルが壊されている。

砂漠の宗教、森の宗教

- アフリカから人類が拡散。文明論。宗教のこと。日本の宗教（森の宗教）と一神教（砂漠の宗教）。砂漠の宗教は平面が見渡せる。生物の多様性が少なく、生きられる場所も少ない。取り合いをしないと生きていけない。森の宗教は空間が三次元、色々なニッチがあるので、ケンカをしないで生きていける。日本人の精神。人間の精神風土は砂漠ではなく森にある。
- 砂漠の宗教は、負けたら復讐しないとイケない。戦争の抑制が難しい。森の宗教は、負けた者からの呪いを恐れて、魂を弔うところに救い。争っている二人よりも小さい者が仲裁する必要。
- これからの人間に大切なこと＝諦めない力。勝つのではなく、「負けない」。
- 1日15分、人間が創ったものではないものを眺めることが大事。

講演会で質問したいこと

- 山際先生はどんな子供時代を過ごされたのでしょうか？
- どうすれば、ゴリラのようになれるのでしょうか？
- 工業化が環境破壊を起こしたが、情報化も人類にとって新たな環境問題ではないでしょうか？

(原田記)

レイチェル・カーソン没後60年記念

山極壽一氏 講演会
「ゴリラから見た
 地球の現状と未来」



対談 山極壽一氏 × 上遠恵子氏

地球は人間だけのものではない、すべての生きものは網の目を張り巡らせたようなバランスを保っており、人間もその網目の一つに過ぎないと、レイチェル・カーソンは『沈黙の春』で訴えています。人間はそのバランスを無視して、あまりにも自然を破壊してきているのではないのでしょうか。

野生の動物たちはそんな人間をどのように見ているのでしょうか。ゴリラと共に暮らし、ゴリラの生き方を学んでこられた山極壽一さんに、野生の目から見た地球の現状を語っていただき、「地球の一員としてのヒトの進むべき道」を考えていきましょう。

日 時 : 2025年2月8日(土) 14:00~16:40
(受付開始 13:30より)

2/8
(土)

内 容 : 第一部 山極壽一氏 講演会 (14:00~15:20)
第二部 対談 山極壽一氏×上遠恵子氏 (15:35~16:20)
質問タイム (16:20~16:40)

参加費 : 1000円

定 員 : 150名

会 場 : 日比谷図書文化館B1F 日比谷コンベンションホール
(東京都千代田区日比谷公園1-4 日比谷公園内)

・千代田線 霞ヶ関駅 C4出口

・丸の内線・日比谷線 霞が関駅 B2出口

【申込先】

Eメール : carsonkantou@gmail.com

TEL : 04-7184-5795 (島藤)

お名前、ふりがな、電話番号等をご明示ください。

※ 右のQRコードからもお申し込みいただけます。



山極壽一氏 講演会
申込みフォーム



主催 : レイチェル・カーソン日本協会 関東フォーラム
協力 : レイチェル・カーソンあびこ

プロフィール



山極壽一（やまぎわじゅいち）

総合地球環境学研究所 所長 1952年東京都生まれ。京都大学理学部卒、同大学院理学研究科博士後期課程単位取得退学。理学博士。

ルワンダ共和国カリソケ研究センター客員研究員、日本モンキーセンター研究員、京都大学霊長類研究所助手、京都大学大学院理学研究科助教授、同教授、同研究科長・理学部長を経て、2020年まで第26代京都大学総長。人類進化論専攻。

屋久島で野生ニホンザル、アフリカ各地で野生ゴリラの社会生態学的研究に従事。日本霊長類学会会長、国際霊長類学会会長、日本学術会議会長、総合科学技術・イノベーション会議議員を歴任。

現在、総合地球環境学研究所 所長、2025年国際博覧会（大阪・関西万博）シニアアドバイザーを務める。南方熊楠賞、アカデミア賞受賞。

山極壽一氏ご著書

- 『「サル化」する人間社会』（2014年 集英社インターナショナル）
- 『人生で大事なことはみんなゴリラから教わった』（2020年 家の光協会）
- 『スマホを捨てたい子どもたち-野生に学ぶ「未知の時代」の生き方』（2020年 ポプラ新書）
- 『京大というジャングルでゴリラ学者が考えたこと』（2021年 朝日新書）
- 『猿声人語』（2022年 青土社）
- 『人類は何を失いつつあるのか』（2022年共著 朝日新聞出版）
- 『ゴリラからの警告』（2022年 毎日新聞出版）
- 『動物たちは何をしゃべっているのか？』（2023年共著 集英社）
- 『共感革命-社交する人類の進化と未来』（2023年 河出新書）
- 『森の声、ゴリラの目-人類の本質を未来へつなぐ』（2024年 小学館新書）
- 『ゴリラとオオカミ・ヤギとゾウのお話』（2024年共著 今人舎）
- 『争いばかりの人間たちへ ゴリラの国から』（2024年 毎日新聞出版）など多数

上遠恵子（かみとおけいこ）

1929年東京生まれ。エッセイスト、レイチェル・カーソン日本協会会長。東京薬科大学卒。1974年ポール・ブルックス『生命の棲家』（後に『レイチェル・カーソン』と改題）を訳出。以来カーソン研究をライフワークにする。訳書に『センス・オブ・ワンダー』、『海辺』、『潮風の下で』など。近著に『13歳からのレイチェル・カーソン』（監修）。他にレイチェル・カーソンに関する著書多数。

